

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3単位	学年	2学年
学科	全学科	教科書	高校数学Ⅱ（実教出版）				
副教材	「高校数学Ⅱ専用　スタディノート」（実教出版）						
学習目標	三角関数、方程式・式と証明、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさが分かるようにする。						

		学習内容	学習活動・学習のねらい	評価の観点			備考
				知 技	思 判 表	主 体	
1 学 期	4月	3章 いろいろな関数 1 一般角	・360° 以上及び負の角度について学び、回転量としての角度の扱いに興味を持つことができ、三角比の値を求めることができる。	◎		○	・3章の前半の内容を進める。
	5月	2 三角関数	・三角関数のいずれか1つの値が決まれば、他の三角関数の値を求めることができる。	○		◎	
		3 三角関数の相互関係	・三角関数のグラフの特徴に興味を持ち、描くことができる。	◎		○	
		4 三角関数の性質	・加法定理の意味とその使い方及び応用の広さを見いだすことができ、2倍角の公式、三角関数の合成についても身につけようとしている。		◎	○	
	6月	5 三角関数のグラフ	・度数法を弧度法で表すことができる。		◎	○	
		6 加法定理			◎	○	・3章の前半終了後、1章の内容を進める。
	6月	7 加法定理の応用			◎	○	
		8 弧度法			◎	○	
		1章 複素数と方程式	・公式を利用して、3乗の展開と3乗の因数分解をすることができる。	◎		○	
		1 整式の乗法	・パスカルの三角形の意味がわかる。		◎	○	
		2 因数分解	・分数式の四則演算と約分ができる。	◎	○	○	
		3 二項定理	・複素数の意味を理解し、演算をすることができる。	○		◎	
		4 分数式	・判別式の有用さに気付くことができる。		○	◎	
	8月	5 複素数	・解と係数の関係を利用することができる。		◎	○	
		6 2次方程式			◎	○	
		7 解と係数の関係			◎	○	
		8 整式の除法	・簡単な整式の除法を理解し、剰余の定理や因数定理を利用することができる。		◎	○	
	9月	9 剰余の定理と因数分解	・因数定理を利用し、高次方程式を解くことができる。		◎	○	
		10 高次方程式	・等式と不等式が成り立つことを証明できる。		○	◎	
		11 式と証明			○	◎	
	12月	12 不等式の証明			○	◎	
		2章 図形と方程式	・数直線上、座標平面上の2点間の距離及び内分点・外分点の座標を計算することができる。	◎		○	
		1 直線上の点の座標と内分・外分	・1点と傾き、あるいは2点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる。	◎	○	○	
		2 平面上的点の座標と内分・外分	・条件より円の方程式を立式し、中心と半径を求めることができる。	◎	○	○	
		3 直線の方程式	・条件を満たす軌跡の方程式を求めることができる。		◎	○	
		4 2直線の関係	・不等式の表す領域を図示することができる。		○	◎	
		5 円の方程式			○	◎	
		6 円と直線の関係			○	◎	
3 学 期	1月	7 軌跡			◎	○	・2章終了後、3章の後半の内容を進める。
		8 円で分けられる領域			○	◎	
	2月	9 直線で分けられる領域			○	◎	
		10 連立不等式の表す領域			○	◎	
	3月	3章 いろいろな関数	・指数を有理数に拡張することに興味を持ち、指数法則の計算ができる。	◎		○	
		1 指数の拡張（1）	・指数関数の定義及びグラフの概形と性質を学び、グラフを描くことができる。		◎	○	
		2 累乗根	・対数の考えと定義を学び、簡単な対数の値を求めることができる。	○		◎	
		3 指数の拡張（2）	・対数の定義とそのグラフの特徴を理解し、グラフを描くことができる。		◎	○	
		4 指数関数のグラフ			◎	○	
		5 対数			◎	○	
		6 対数の性質			◎	○	
		7 対数関数のグラフ			◎	○	
		8 常用対数			◎	○	
		課題学習	・学んだ内容を、生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題に取り組む。		◎	○	

※ 評価の観点欄は、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、課題やノート提出、小テストの成績などを総合的に評価する。 ・平常の取組（授業態度、意欲等）についても評価する。
------	---